

<http://www.boiseweekly.com/>

より細かいカット 美しい空間を埋め尽くす日本からの「木・紙」展



Kazuo Kadonaga Wood No.5 W Cedar

by Gretchen Jude

日本の彫刻家、角永和夫が静かに、スチュワートギャラリーワンを引き継ぎました。ガラス、竹、紙を手がける角永は、スチュワートの「ウッドペーパー」ショーの最初の構成要素を提供します。

マテリアル記述子は、作品自体と同様に、誤解を招くほど単純です。さまざまな長さの角永の丸太は、大まかにまたは細かくスライスされます。キラリと光る木材は、元の形、結び目などすべてを取り戻すために一緒に配置されます。変化は目を見張るものがあり、「断片はどのように凝集するのか？」（それらはダボで一緒に保持されていると、ギャラリーの芸術監督であるステファニー・ワイルドは言います。）

彼女のウェブサイトによると、日本の杉の製材所で育った角永は、「作業に関わるプロセスとシステムに関心を持っています」。彼によると、実際の切断は他の人によって行われます。

ここでは、アーティストの手は無関係であり、独創性と技術的な秘密の概念も含まれています。壁にスポットライトを当てた小さな杉の丸太である Wood No.8 CF は、若い木の幽霊のような心のように浮かんでいます。Wilde によれば、自然に発生した不規則な垂直分割とは対照的に、それぞれ指の幅が離れている水平ソーカットはまだ発達し

ています。ワイルド氏によると、部品は到着して

から短時間で変化し、周囲の状況に応じてゆっくりと一定の動きで変化しました。本のようなヒノキのカット、Wood No. 5 DJ と Wood No. 5 DI は、日本から到着したときは平らでしたが、暑さに負けていないときは、トップシートがカーブして浮き上がりました。最近、涼しい天候が再びシートを平らにしています。

ここでは、アーティストの手は無関係であり、独創性と技術的な秘密の概念も含まれています。壁にスポットライトが当てられた小さな杉の丸太である Wood No. 8 CF は、5月16日のオープニングのために若い

角永の幽霊のようなハートがボイシを訪れたように浮かんでいます。ここにいる間、彼はボイシに永久に一ギャラリーの床に彼の印を残しました。ワイルドによると、新しいギャラリースペースの床を見たとき、彼はそれを灰色に塗ることを要求しました。実際、彼の本能は的を射ていた。ワイルドは、苦しめられたコンクリートの床が仕事の邪魔をしていたことを認めている。自分でやってもらえると彼に言ったら、角永はオープニングパーティーに間に合うように仕事に取り掛かった。

彼の作品は、自然の微妙な美しさを証明していますが、自然の中で動作する工業的方法の超人的な驚異をより力強く語っています。伝統的な日本の手工芸品とは異なり、これらの作品は彼らの機械製の自慢を誇っています。しかし、角永の作品は日本の伝統に適合し、西洋の美学の「芸術/工芸」の二分法を避けてきました。自然を超えて再構築することで、アーティストは私たちを取り巻く別世界の美しさを視聴者の注意に引き付けます。人間の介入は自然とのコラボレーションになります。

Through June 30. Stewart Gallery, 1110 W. Jefferson St., 208-433-0593, stewartgallery.com

Tags: Visual Art, Boise, art, Visual Art